

「裁判所とは手を組める-----」(元関東青年部常任 吉原 某)

「裁判所とは手を組める-----」

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

動労全国大会の総破綻に  
消耗し切る「本部」オルグ団  
そのII

動労第三五回全国大会の実情は、第三三回水上大会での役員改選後、「水本謀略」「安定宣言」などの革マル方針を動労内に直接的に持ち込んだことによる路線的右傾化、第三四回津山大会に特徴的に現出された「組合員の正当な発言を暴力で封じ込め」てゴリ押しした「機関決定」を、さらに暴力で職場・生産点に押しつけようとする組織運営によって、全くセクト的に歪められてしまった動労運動の破産と混迷の現実を満天下に暴露するものであった。

革マル反動分子の破産の実態

第一に、第三五回大会における総評・楨枝、全交運・吉岡両議長の来賓あいさつや総評大会の富塚事務局長答弁に示された「動労の孤立」。  
第二に、「千葉問題」「安定宣言」「水本謀略」についての全面修正動議。  
第三に、見せかけだけの「静かな大会」を演出しようとしても、会場への竹竿の持ち込み等で暴力集団の本性が暴露されてしま

昨今の「オルグ」の実態(その4)

八月一八日、成田支部にて

△大会の破綻は「権力直通分子」のせいだ・と▽  
一八日、成田支部にやってきた青年部中心の一名。(一四時三〇分〜一五時三〇分)一階玄関で組合員から大会問題で追及されしどろもどろ。成田支部組合員「今度の大会は何だ。新執行部も組めないじゃないか」「オルグ」団員「権力直通分子(何という言い草だ!!)がウヨウヨいるから今回の状況もしかないんだ」

革マル密通分子を許すな!

昨今の「オルグ」の実態(その5)

八月一四日、津田沼支部

これらの「職場のクズ」とも言うべき部分を全国大会に引き出さなければならなかったというところに、反動革マル分子のこの間の動労千葉破壊策動の破産の深刻さがある。  
このような現実のうちめされているが故に「オルグ」に來た反動革マル分子の消耗感もまた深刻なのである。

△反動革マル分子こそ「権力直通」!▽  
彼らの権力・当局ベッタリの反労働者の体質は、オルグ団の対応の中にもしみていつている。組合費訴訟や大久保元青年部長の検察側証人問題、や津田沼襲撃事件でのわれわれの検察側証人拒否問題等々で追及された「オルグ」団責任者吉原(元関東常任・新幹線)、「権力」といっても裁判所は警察なんかとは一寸ちがう。社青同解放派は権力にあやつられた走狗そのものだから、それをあばくためには裁判所を利用するという事は全くかまわ

しかし、われわれは七人の裏切り「革マル密通分子」の犯した犯罪的行動を絶対に許すことはできない。この密通分子達は連日われわれの職場を汚しにくる反動革マル分子に口実を与え、動労千葉の闘いを当局に泣きついて妨害する反動分子の道具として利用されることがはつきりとしているからだ。  
動労千葉一四〇〇名と、一二地本・七〇名の良

「かい」と革マル思想むき出しの反動的論理をのうと述べ、権力・当局連合派の本性をさらけ出し、全員から激しく弾劾されるありさまであった。